

投信の「選択と集中」が進む中、10兆円突破したNISAで、どの商品に投資する？ 4月の投信はグローバル株や日本株が人気で、ネット証券ではそれらのインデックスファンドが人気だった。

商品企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 投信の「選択と集中」が進む中、10兆円突破したNISAでどの商品に投資する？

2017年5月12日付日本経済新聞は「投信『選択と集中』進む」と言う見出しで、「2016年度に運用を停止し、投資家に資金を返還した投信の本数は16年ぶりの多さとなった。国内では6000本を超える公募投信が乱立しているが、運用成績が低迷しているファンドも多い。」と報じていた(URLは後述[参考ホームページ]①)。

運用を停止して投資家に資金を返還する投信が増えている。その中、積立NISA(少額投資非課税制度)適格投信など新しい投信が増えていきそうである。積立NISA適格投信については「金融機関に対し長期的な資産運用に適した投資信託の種類を増やすよう強く促しました。」(5月10日付NHKの森信親金融庁長官の発言と報じられている(URLは後述[参考ホームページ]②))。積立NISA適格投信は現時点で、公募投信全体(約5400本)の約1%以下(約50本)しか無いと言う(4月24日付コラムその179参照~URLは後述[参考ホームページ]③)。その意味で、積立NISA適格投信の増える可能性は高い。金融庁は長期分散投資も提唱しており、「内外株式投信(エクイティ)と、預貯金(デット)を組み合わせれば、家計のリスク許容度に見合う投資戦略がとれる。何といても、投資成果のほとんどは投資家が選択する資産配分の結果次第だからである。」(5月10日付日本経済新聞朝刊~URLは後述[参考ホームページ]④)とも言っている。

金融庁が促している、積立NISA適格投信、長期的な資産運用に適した投資信託、そして、預貯金(デット)を組み合わせる事でリスク許容度に見合う投資戦略をとれる内外株式投信(エクイティ)だが、確かに投資家に良さそうではある。この様な投信を通じ、個人の長期資産形成につながる事が期待されている。

ただ、現状約50本と言う積立NISA適格投信を個々で見ると(金融庁基準での推測)、「株式型・資産複合型投信」だけであるのに、日本株式ファンド、外国(先進国)株式ファンド、エマージング(新興国)株式ファンド、アセットアロケーション(バランス)ファンドなど、多様な選択が必要となっている。

現行のNISAやジュニアNISAでも言われている「どの商品を購入してよいかわからない」となる可能性がある。さらに、個人の中には積立NISA適格投信では除かれた「主にREITやハイイールド債等に投資するファンド」に投資をしたい投資家も少なくないと思われる。



こうした場合に参考となるのが、これまでのNISAでどの様な商品が購入されてきたか、そのベンチマークのパフォーマンス(リスクとリターン)はどうだったかの情報であろう。投信はデータが充実しており、速報性もあって、参考にしやすい。そこで下記で2014年1月開始から累計10兆円超となったNISA(後述※1)において、どの様な商品が投資されてきたかを見る事とする。NISAのみならず個人型DCやiDeCo(イデコ)を検討している人にも有益な情報であり、こうした情報提供こそが、投資優遇制度拡大の鍵も握っていると思われる(後述※2)。

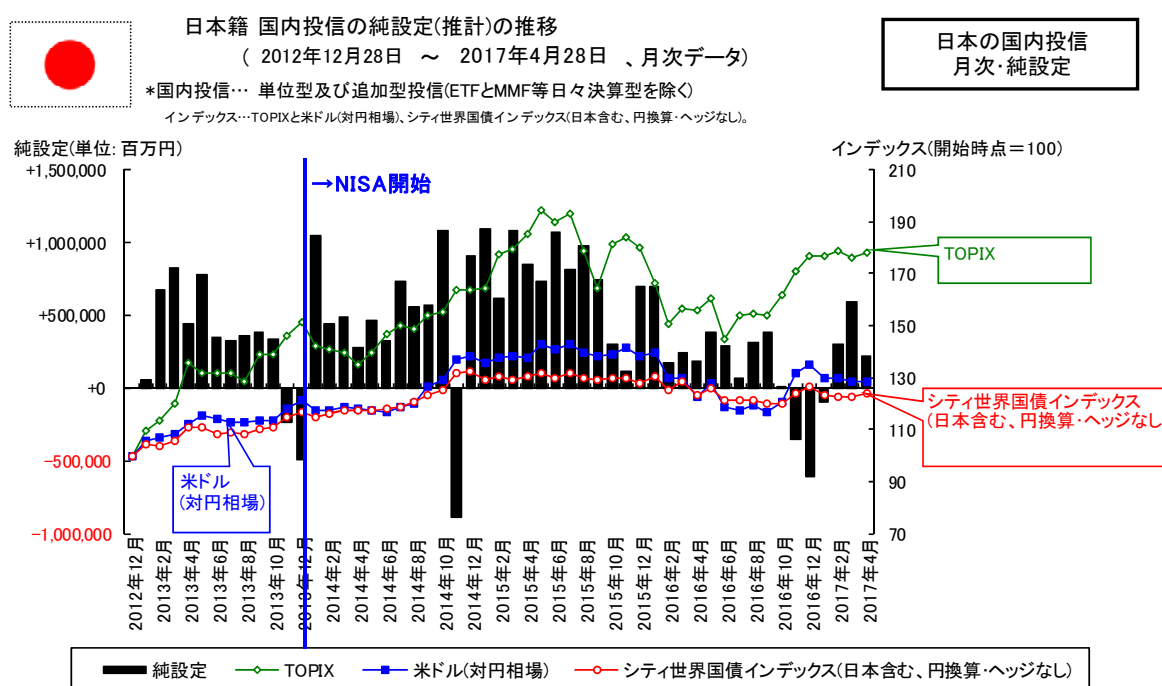
※1: NISA 投資累計 10 兆円超…NISA の投資総額/買付総額は、金融庁によると 2016 年末時点で 9 兆 4756 億円、2017 年は 5 月 11 日時点で証券業協会による主要 10 証券会社のみで 1~3 月に 6076 億円と公表されている~URL は後述[参考ホームページ]⑤)。

※2: NISA、ジュニア NISA、企業型 DC、iDeCo(イデコ)、財形貯蓄の利用状況…2014 年 1 月開始の NISA は 3 年経過で利用者が約 1069 万人と、対象となる 20 歳以上の 10.2%(2016 年 12 月末時点の速報値)となっている。買付総額は 10 兆円超(2017 年 3 月末時点の推計値)、残高 4 兆 8598 億円(2015 年 12 月末時点。\*2016 年 12 月末時点の数値は 2017 年 5 月下旬頃に公表見込み)。

NISA と並ぶ投資優遇制度に、ジュニア NISA、企業型確定拠出年金/企業型 DC、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金がある。2016 年に開始したばかりのジュニア NISA の利用者は 19 万人と、対象となる 19 歳以下の 0.9%、買付総額 289 億万円(2016 年 12 月末時点の速報値)。2001 年 10 月法施行の確定拠出年金は 15 年経過で企業型 DC の加入者が約 590 万人/日本の全労働力人口に対する比率 8.9%である(2017 年 2 月末現在)。その資産残高は約 9.5 兆円(2016 年 3 月末現在)だ。iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金の加入者は約 43 万人/日本の全労働力人口に対する比率 0.6%(2017 年 3 月末現在)、その資産残高 1.2 兆円(2016 年 3 月末現在)となっている。ちなみに職場の資産形成制度の一つである財形貯蓄(年金財形・住宅財形・一般財形貯蓄)については、導入から 28 年超で契約件数 823 万件、貯蓄残高 15 兆 9905 億円となっている(2016 年 3 月末現在。1972 年に一般財形、1982 年に年金財形、1988 年に住宅財形が導入)。詳細は 2016 年 3 月 14 日付日本版ISAの道その 135 参照(URL は後述[参考ホームページ]⑥)。

## NISA の最新 2017 年 4 月の投資動向~既存投資家は 3 カ月連続の資金純流入~

NISA の投資家を、既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※3 参照)で代替する。まず **NISA の既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は 2017 年 4 月に+2182 億円と、前月(約+5900 億円)から 6 割減となるものの、3 カ月連続の資金純流入だった。**



(出所:グループウェア、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

## NISAの既存投資家は引き続きグローバル株やオーストラリア株を志向

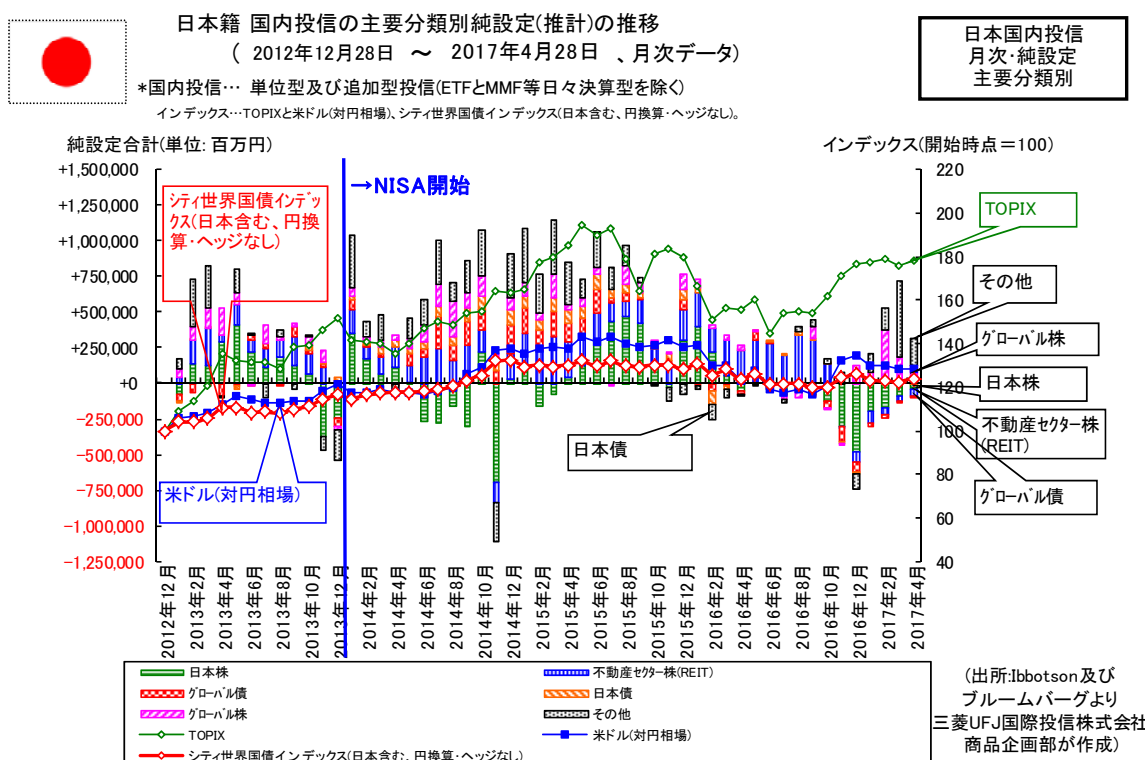
3カ月連続の純流入となった4月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年4月に最も純設定の大きかったのは、グローバル株、次いでアジア株(除く日本)、アセットアロケーション柔軟型、ハイイールド債**だった。

前月3月と顔ぶれは同じである(下記グラフ参照 \*主要分類…モーニングスター分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。アジア株、アセットアロケーション柔軟型、ハイイールド債は「その他」に含まれる)。

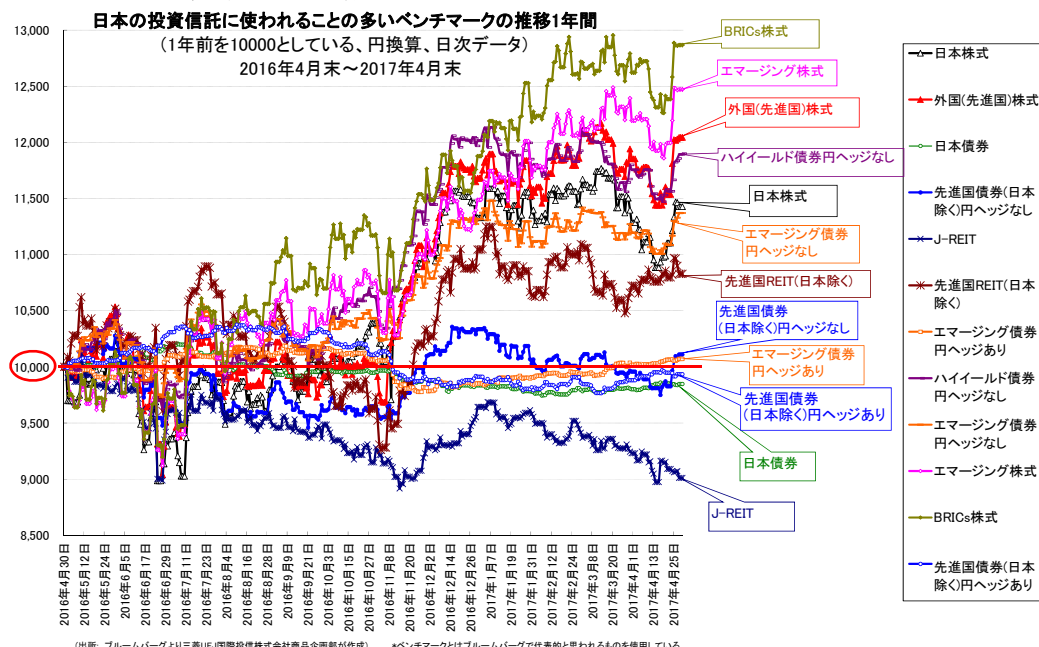
グローバル株の純設定は4月に+1157億円と、5カ月連続の純流入で、引き続き人工知能(AI)関連ファンドへの流入が見られた。ただ、2017年2月の+3521億円というNISA開始以来の最大からは2カ月連続で減少した。2月は、グローバル株がほとんどで、新規設定された人工知能(AI)関連ファンドの純設定が+3500億円近くとなり、グローバル株の純設定を押し上げた時である。

グローバル株や人工知能(AI)関連ファンド等への人気については、「**看板公約だったイスラム圏からの入国禁止、医療保険制度改革法(オバマケア)の代替法案が頓挫するなどトランプ米大統領の政治リスクが市場に大きな影響を及ぼすなかでも、AIは中長期の成長テーマとして期待が高まっている。昨年まで人気だった海外の不動産投資信託(REIT)投信からは資金が流出しており、新たな海外資産としてAI投信が投資マネーの受け皿となっている面がある。**」(2017年4月2日付日経ヴェリタス~URLは後述[参考ホームページ]⑦)と報じられていた。グローバル株に次いで純設定の大きかったアジア株(除く日本)は4月に+673億円だったが、これは主にオーストラリア株である。

一方、日本株は純流出が続くが、-400億円に鈍化した(←3月-786億円←2月-1683億円←1月-1895億円←2016年12月-4771億円 \*11月8日の米大統領選挙後の株高をうけて利益確定の売りが膨らむ←11月-2951億円)。不動産セクター株(REIT)は2016年11月以降、純流出が続く、4月は-473億円と日本株を上回る純流出だった(←3月-381億円←2月-407億円←1月-807億円)。

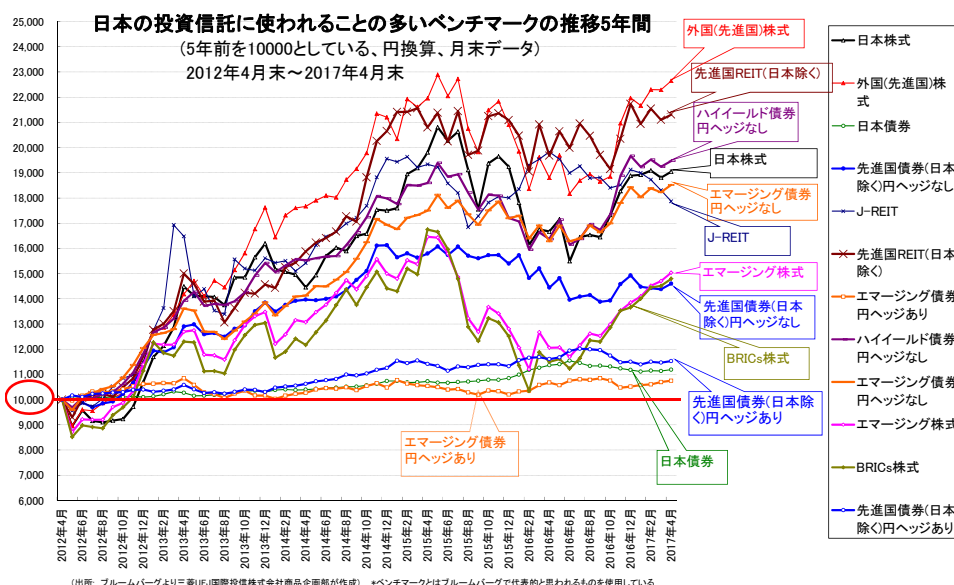


日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、先進国株式、ハイイールド債円ヘッジなし、日本株式、エマージング債、先進国 REIT となっている(\*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。前述した様に2017年4月の投信全体でグローバル株、アジア株(除く日本)、ハイイールド債などは純設定が大きかったが、こうしたパフォーマンスの好調さによる所もあろう。



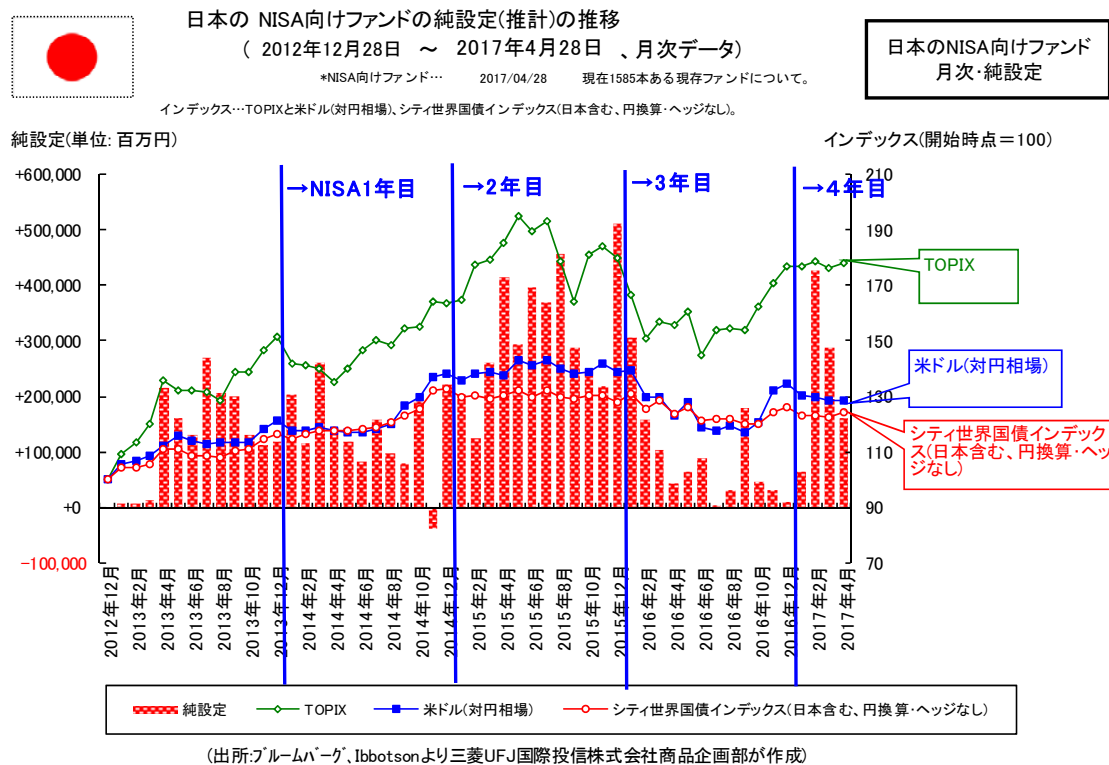
日本株のパフォーマンスは、3年や5年で見れば、上記グラフのベンチマークでエマージング株を上回るパフォーマンスだったが、足元1カ月・3カ月・半年・1年いずれもエマージング株や先進国株式に劣後している。

下記のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国 REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、日本株式、エマージング債券円ヘッジなし、J-REIT となっている(\*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5年や2016年10月末からの半年で見れば、下記グラフのベンチマークで最も好く、1年や2017年1月末からの3カ月ではエマージング株・BRICs 株に次いで3番目に好かった。こうしたパフォーマンスの好きがグローバル株への人気につながっている様に見える。



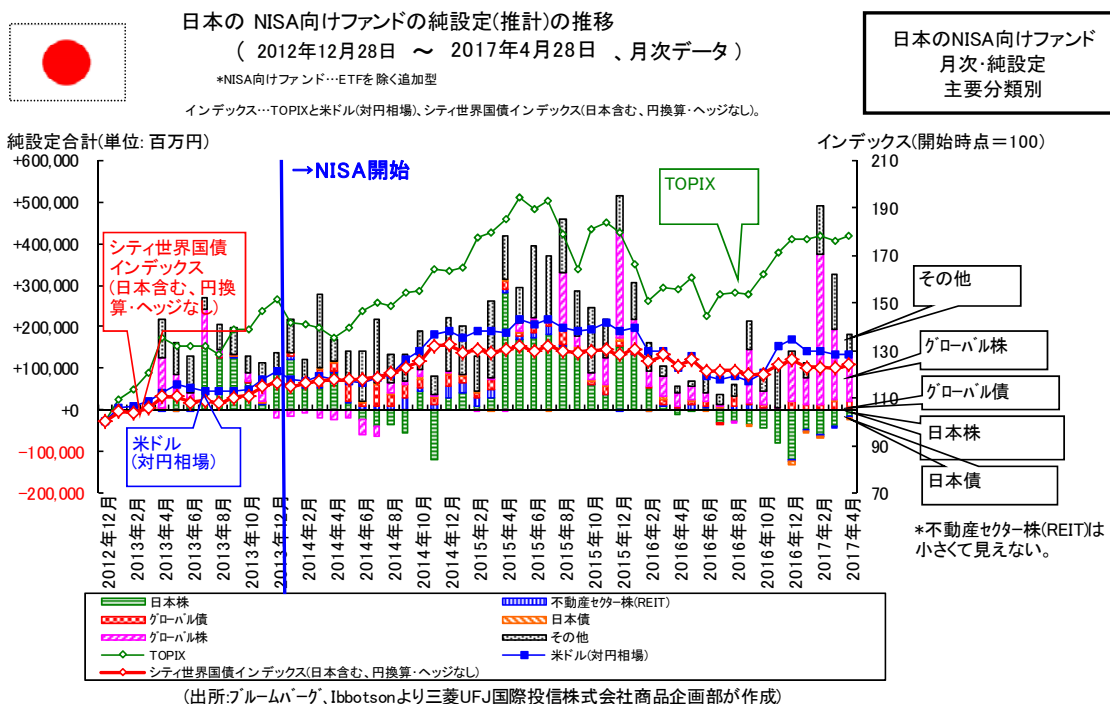
## NISA の新規投資家はグローバル株・グローバル債・アロケーションファンドを志向

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。 **既存投資家の動向を示す投信全体では 3 カ月連続の純流入となったが、NISA 向けファンドの純設定は、最新 2017 年 4 月に+1596 億円と 2014 年 12 月以降 2 年 5 カ月連続の純流入である。**



※3: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑧)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(\*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単体型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(\*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017 年 4 月 28 日時点で 1585 本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、2017 年 4 月の純設定 1 位はグローバル株 (2 月から 3 カ月連続 1 位)、2 位は米国大型ブレンド株(前月 3 月は 3 位)、3 位はグローバル債(同 4 位)だった(次頁グラフ参照。米国大型ブレンド株は「その他」に含まれる)。



2016年1年間の純設定額が+5027億円とNISA向けファンドでは最大だったグローバル株は、投信全体と同様4月も純設定額が最大で、2016年9月から8カ月連続の純流入である。

アセットアロケーション型は、2015年・2016年はいずれも年間純設定額が2位だったが、2017年4月は+188億円と月間4位で純流入は継続している。

「バランス型ファンドは値動きの異なる複数の資産に分散投資するため、特定の資産に集中投資するタイプと比べて価格の変動が小さい。積み立て投資など長期の運用で使われることも多く、利益確定の売りが比較的に出にくいことも資金の流入が続く一因とみられる。」(2017年4月13日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]⑨)や「NISAの非課税枠は年120万円の上限があります。値上がりした資産を売ってもその分の枠は再利用できず、リバランスが難しい面があります。バランス型は運用会社が資産配分の調整をしてくれるため、個人は投信自体を売却する必要がなく、投資枠を温存したままリバランスができます。」と言われている(2017年1月28日付日本経済新聞朝刊～URLは後述[参考ホームページ]⑩)。

一方、日本株は、2015年に+1.4兆円超という年間純設定額から2016年は-1667億円と、大きく純流出となり、2017年も4月にかけて10カ月連続の純流出となっている。

## ネット証券の投資家は日本株・グローバル株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2017年5月9日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。

ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑪)。

### <NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2017 年 4 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1・3 位は日本株ファンド、2・4 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・4 位はインデックスファンド)となっている。前月 3 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)の 1・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3・4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・5 位はインデックスファンド)だった。また、週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 5 月 1 日から 5 月 5 日までは、1・3・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3 位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の 3 月 27 日から 3 月 31 日までは、1・3・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5 位はインデックスファンド)だった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 5 月 1 日から 5 月 5 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・3・4 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2~4 位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の 3 月 27 日から 3 月 31 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・4 位は日本株ファンド、2・3 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・4 位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、5 月 1 日から 5 月 5 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・3 位は日本株ファンド、2・4 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 3 月 27 日から 3 月 31 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・4 位は日本株ファンド、2・3 位はグローバル株ファンド、5 位はブラジル株ファンド(3・4 位はインデックスファンド)だった。

### <ジュニア NISA 投資信託>

○SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 5 月 1 日から 5 月 5 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・3・4 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2~4 位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の 3 月 27 日から 3 月 31 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・4 位はグローバル株ファンド、2 位は日本株ファンド、3 位は不動産セクター(REIT)ファンド、5 位はアセットアロケーションファンド(1 位はインデックスファンド)だった。

<NISA 積立~2017 年 5 月 9 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2017 年 4 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3 位は日本株ファンド、2・4・5 位はグローバル株ファンドとなっている(\*2~5 位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週 5 月 1 日から 5 月 5 日までの NISA 口座では、1・4・5 位は日本株ファンド、2・3 位はグローバル株ファンドとなっている(\*2~5 位はインデックスファンド)。

ネット証券では、前月に引き続き日本株の人気が見られ、次いでグローバル株が人気だった様だ。またインデックスファンド志向が強い。以上、こうした情報が、NISA やジュニア NISA で「どの商品を購入してよいかわからない」と言う人にはもちろん、企業型 DC や iDeCo 等で金融商品購入を検討する場合に参考となれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

- ①2017年5月12日付日本経済新聞朝刊「投信『選択と集中』進む 運用各社、償還本数16年ぶり高水準」…  
「<http://www.nikkei.com/article/DGXLZ016271150R10C17A5EE9000/>」、
- ②2017年5月10日付NHKニュース「金融庁長官 積立NISAに合った商品増やすよう促す」…  
「<http://www.3-nhk.or.jp/news/html/20170510/k10010976501000.html>」、
- ③2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「[http://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_170424.pdf](http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf)」、
- ④2017年5月10日付日本経済新聞朝刊「投信改革と金融庁の役割」…  
「<http://www.nikkei.com/article/DGKKZ016154870Z00C17A5EN2000/>」、
- ⑤2017年2月28日(火)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成28年12月末、速報値)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170228-1/01.pdf>」、2017年4月19日付日本証券業協会公表の主要証券会社10社のNISA口座開設・利用状況の調査結果(2017年3月末時点)…「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、
- ⑥2016年3月14日付日本版ISAの道その135「職場積立NISA拡大の可能性は高い～職場積立NISAは、9兆円のDC、16兆円の財形、5兆円の持株を補完出来る～」…「[http://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_160314.pdf](http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160314.pdf)」、  
企業年金連合会「確定拠出年金の統計」…「<https://www.pfa.or.jp/>」、厚生労働省「  
確定拠出年金の施行状況」…「<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nenkin/nenkin/kyoshutsu/sekou.html>」、  
個人型確定拠出年金「最新iDeCo加入者数等について(平成29年3月)」…「<http://www.npfa.or.jp/401K/news/>」、  
厚生労働省「財形貯蓄制度の実施状況について」…「<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000108306.html>」、
- ⑦2017年4月2日付日経ヴェリタス「4日間で1100億円集める例も AI投信、実力は」…  
「<http://www.nikkei.com/my/#/article/DGXMZ014806070R00C17A4K15200/>」、
- ⑧2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、
- ⑨2017年4月13日付日本経済新聞電子版「資金流入長く続くファンド 上位にバランス型目立つ 投信番付」…  
「<http://www.nikkei.com/article/DGKXZ015251870T10C17A4ENK001/>」、
- ⑩2017年1月28日付日本経済新聞朝刊「初心者の投信選び 値動き安定のバランス型は長期向き」…  
「<http://style.nikkei.com/article/DGXMZ012205170X20C17A1PPE001?channel=DF280120166591>」、
- ⑪SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisecc.co.jp/>」、  
楽天証券のNISAランキング・投資信託…「[https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA\\_ranking](https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking)」、  
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。